連携先世界遺産：真言宗御室派 総本山仁和寺

仁和寺を、もっと！Ver.3

落ち着いた古都の雰囲気に満ち、歴史と文化財が集積する仁和寺。国内外問わず訪問者があり、ユニークで魅力あるスポットも多い。大学生目線で、仁和寺を「もっと身近」に、「もっと魅力」が感じられる場所にするためのプロジェクトを実施します。

■受講生

氏名（50音順）で記載してください。

林　羽蘭（京都光華女子大学　キャリア形成学部キャリア形成学科　1年生）
福田　真子（京都光華女子大学　キャリア形成学部キャリア形成学科　1年生）
山田 凌太（立命館大学　産業社会学部現代社会学科　4年生）
聴講生　中田　鈴子（京都光華女子大学　キャリア形成学部キャリア形成学科　3年生）
角波 詩緒莉（京都光華女子大学　健康科学部 健康栄養学科　2年生）
SA　佐々木 利尚（種智院大学）

■担当教員

大島 祥子　（京都光華女子大学・キャリア形成学部・准教授）
朝比奈 英夫（　同　・教授）

活動目的・概要

洛北、双ヶ岡の北麓に位置する真言宗御室派総本山の仁和寺は、創建以来、1200年余の歴史を有する大寺院である。壮大な伽藍には、国宝、重要文化財のほか、登録有形文化財、国名勝・史跡など、バラエティに富んだ文化財が存在する。境内には博物館による文化財の展示と解説だけでなく、仁和寺の雰囲気に溶け込んだカフェが営業されていたり、雲海ライトアップや多様な種類の御朱印が提供されるなど多様な展開が実施されている。これらに加え、大学生の目線から若年層向けの企画を展開し、「もっと訪れてみたくなる仁和寺」を発信する方法を検討することを目的としている。

今年度の取組は、これまで継続して検討している「スタンプラリーを通じた仁和寺の魅力発見」のブラッシュアップを行い、実装を行った。11月に境内の4箇所にスタンプスポットを設定し、履修生の手作りによる台紙とスタンプを設置し、参詣者が境内をめぐりながらオリジナルポストカードを完成される「仁和寺四季めぐり」を展開した。4日間で約100名に利用され、この方法の可能性を実感するとともに、多様な課題や改善点を抽出することができた。

◆主な活動

2025.4.12　御室桜見学
2025.5月　インタビュートレーニング（オンデマンド）
2025.5.24　前年度の取組共有、仁和寺に関する学習
2025.6.21　スタンプラリーの今年度の取組の検討
2025.6.28　仁和寺での学習（文化財、歴史）
　　仁和寺見学
2025.7.5　スタンプと台紙に関する検討と役割分担
＜夏期休暇中にスタンプと台紙のイラスト制作作業＞
2025.9.13　スタンプラリーに関する検討、調整
2025.9.20　仁和寺にて企画に関する意見交換
2025.9.27　仁和寺四季めぐり　準備作業
2025.10.25　仁和寺四季めぐり　準備作業
2025.11.1　仁和寺にて設営
2025.11.4～11.7　仁和寺四季めぐり　実施（早期終了）
2025.11.16　仁和寺へ事業報告及び意見交換
2025.11.22　発表資料作成
2025.11.29　発表練習
2025.12.7　成果発表会

活動の成果

今年度の方針

① 私たち自身が仁和寺を学び、好きになる
② 私たちと同世代が仁和寺に関心を持ち、足を運ぶ動機を創る
③ 2024年度の提案を実装する

今年度のテーマ

スタンプラリーで繋がる、私と仁和寺。

若者にとっての「仁和寺境内完結型の御朱印帳」。パワースポットを通じた新しい仁和寺の再発見。

仁和寺四季めぐり

今年度の学び・実践

スタンプラリー

- 若年層や海外の方を主対象に、境内のあまり知られていないスポットを巡る、スタンプラリーと御朱印帳の要素を合わせた取組。
- 境内4か所にスタンプスポットを設置し、それぞれに御利益を設定し、参拝者がオリジナルのポストカードを仕上げるもの。
- ポストカード式の台紙のデザインはメンバーで作成。**6種類約100枚**を準備。
- スタンプは紅葉や桜、あじさいなどの植物に加え、雷や蝉、桃など巡るスポットの由来をモチーフにしたものを手作りで彫り、**合計32本**用意。
- 好評につき、開始後4日間で台紙は完売。
- お志でいただいた参加費は全て仁和寺に寄附。

活動を振り返って

- 今回の産官学連携プロジェクトを通して、企画を形にする難しさと、実際に人に届ける楽しさの両方に気づくことができました。スタンプラリーの台紙が予想以上に早く完売したことで、自分たちのアイデアが思った以上に受け入れられていることに気づき、大きな励みになりました。また、スタッフとして現地に立てなかった経験から、運営側の視点で学べる機会の貴重さにも気づきました。もし今後も関わることができるのであれば活動では、準備段階から当日運営まで、一つ一つのプロセスを大切にしたいと思いました。（林　羽蘭）
- 授業で話し合いながら準備を進め、無事に開催までこぎつけることができてよかったと感じている。スタンプを一つずつ彫る作業は予想以上に大変であったが、台紙も含めて全てをオリジナルで作成したことで、それぞれの個性が表れ、味のある仕上がりになった。この取り組みを通して、企画を形にするまでの過程の大切さや、協力して作り上げる楽しさを実感でき、学びが多い授業出会った。（福田 真子）
- 境内スタンプラリー実施を通じ、仁和寺という場所の寛容さと参拝者の温かさに触れました。この実践の中で最も強く感じたのは、企画とは自分たちで完結するものではなく、多くの人の協力の上に成り立っているという事実です。仁和寺や参拝される方々が快く参加、協力してくださったのは本授業のこれまでの積み重ねがあったからこそだと思います。一つの企画に関わってくれる人に対して、入念な準備と責任感が不可欠だと学びました。（山田 凌太）
- スタンプラリーのチラシや台紙を作る中で、どのようにしたら人の目を引くことができるのか、日本語版と英語版では文字数が大きく変わってくるのでレイアウトが変わりやすいことに気付きました。また、チラシの印刷など初めて経験することが多かったです。そのため、これからも初めて経験することが出てくると思いますが、今回の初めてでもできたという経験を思い出してひるまずに挑戦していきたいと思いました。（中田 鈴子）
- 今年度は実際にスタンプラリーを行った事で、今までになかったタイプの学びが得られました。また、過去二年出たキャラクター、そしてスタンプという案が、今回一つの形として結実した事はそれらにメンバーの一人として関わった者として、感無量です。一方、プロジェクトそのものの課題と、自分の課題とを、実際にやってみる事で感じた部分もありました。ともかく、先生方、仁和寺の方々、そして毎年新しく加わってくださった方々のお陰でここまで来れました事は、感謝の至りです。（佐々木 利尚）

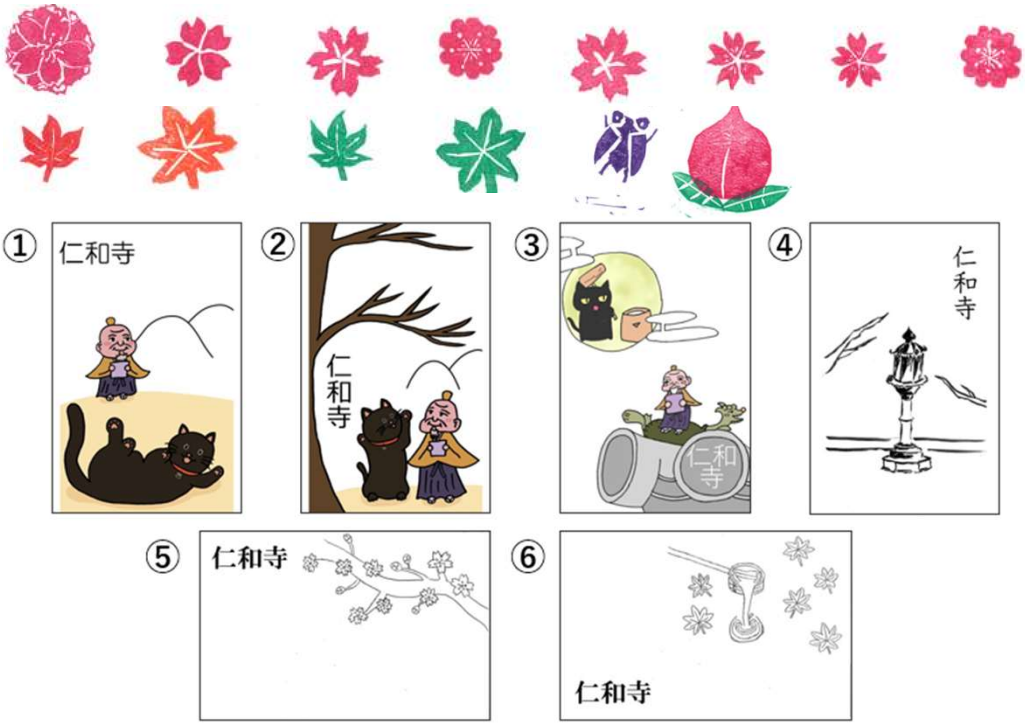
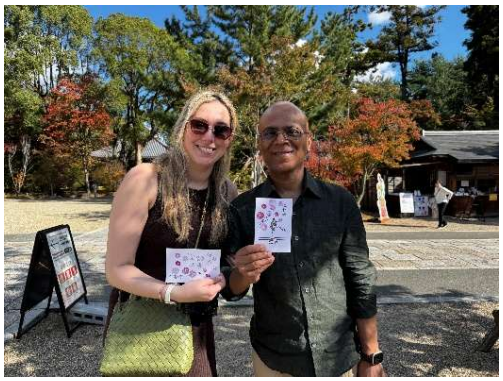
担当教員からのコメント

- 今年度の前期は、主に仁和寺の歴史と文化について学びました。限られた時間でしたが、それぞれが工夫して、仁和寺にまつわる出来事、人、文化財を調べ、知識を確かなものにして、後期のグループワークに備えました。後期は、集中的に集まり、またオンラインで情報の共有と検討を進めました。皆が心を合わせて行った協働が一番貴重な成果だったと思います。最後になりましたが、仁和寺様のご厚意にお礼申し上げます。（朝比奈英夫）
- 今年も、履修生に加え聴講生、SAが加わったチームで実施し、全員での意見交換ができるまとまりがありました。少数精鋭部隊としてメンバーがそれぞれの得意技を活かして取り組めました。試作版ができてからも何度もブラッシュアップを重ね、企画がどんどん成長していくのを目の当たりにすることは、協働作業の醍醐味だと改めて感じました。仁和寺での実装は、仁和寺の皆様に大いに助けられて実施することができました。改めて感謝申し上げます。（大島 祥子）

活動資料

仁和寺の学習から始め、ときには境内のスイーツに舌鼓をうち、境内の調査で感じたことを大事にしながら、昨年の蓄積を活かした取組を実装しました。

アンケート調査では、同世代の人からの回答を得られ励まされました。海外からの参拝者や修学旅行生に特に好評でした。

予想以上に好評で、予定していた日程より早く終了したために、仁和寺で案内をする機会を得られないメンバーも出てしまいました。

今回の教訓から、期間を短くして全員が仁和寺でプロモーションする必要性を感じました。